

松下真一（1922-1990）：

大阪府茨木市生まれの数学者（関数解析、ポテンシャル論）であり作曲家

数学

戦後、大阪市立大学助教授時代、情報の少ない時期に当時の世界最先端のテーマの数学研究を行い、1950年代にヨーロッパの専門雑誌に成果を多数発表。その研究は量子力学の基礎を作った物理学者の一人、パスクアル・ヨルダンの目に留まり、松下はハンブルク大学へ招待された。

ハンブルクでは、ヨルダンと共にヨルダン代数、および一般相対性理論を修正した新しい宇宙論を共同研究。

音楽

作曲は、子供時代にほぼ独学で初め、13歳で交響曲を作曲。

1960年代にはヨーロッパで前衛音楽のトップグループの一人であったのは日本では知られていない。欧米では、ブーレーズ、マタチッチ、ロリオ、サットマリー等により作品が演奏され、また、クセナキス、シュトックハウゼン、ノーノらとも親交を結ぶ。

同時に、日本人としてのアイデンティティに向き合い仏教的な素材に基づく大規模な作品も残した。一方、日本ではテレビドラマの音楽も多数作曲。厳格なセリー、管理された偶然性、新口マン主義と常に前衛音楽の最先端を駆け抜けた松下真一であったが、あまりに多数の音楽作品を残したが、いまだに彼の音楽業績の全貌は明らかではない。

二度葬られた松下

晩年は作曲活動に重心をおいたものの、日本では経済的には不遇で、さらに没後、マスコミから姿を消した。

彼の作品が急速に演奏されなくなった理由は、生前マスコミ上で日本の閉鎖的音楽界を強烈に批判する発言をしていた事、松下の共同研究者であったヨルダンがネオ・ナチ運動に加担していた事、などが考えられる。

また、独特の図形楽譜が演奏家にとって非常に難しく、敬遠されたこともある。

当時の松下

生前は松下作品のLPレコードが何枚も発売され、書籍も一般向けの随想が多数出版された。科学史家の村上陽一郎と時間論で議論を戦わせたのは有名で、音楽界、思想界で話題の人でもあった。

代表曲

代表曲の「 Fresco・ソノール」や「星たちの息吹き」はその美しさにも関わらず、今では演奏される機会もなく20世紀音楽愛好家の中で伝説の作品である。

早くから声明や和讃に取り組んだ、東西本願寺・高田派・佛光寺派等の真宗教団連合結成50周年のためのオラトリオ『親鸞』、阿含経（あごんきょう）に基づく交響曲『サムガ』、レコード9枚におよぶ法華経カンタータ《佛陀》などは、晩年の代表作。

ピアノ曲「スペクトラ」(連作)は60年代から70年代に渡って作曲され松下の作風を横断的に知るのに良い作品群である。しかし演奏は技術的にも表現の面でも非常に困難である。例えばスペクトラ5番の図形楽譜から科学的論理に裏打ちされた深い音楽的思考を解きほぐすのは、容易ではない。演奏家自身にも20世紀ヨーロッパ音楽の様式を体系的に把握することが求められる。

松下作品の復活上演

戦後、音楽・数学ともに世界の最高峰で活躍した数少ない日本人・松下真一。

現代の演奏家の中でも、図形楽譜さえ知らない者も多い。本公演は、長らく譜面の所在が不明であった《スペクトラ第5番》世界初演を含む、ピアノ独奏のための《スペクトラ》シリーズの全曲通奏初演。

松下真一の作品を復活させることは、世界の中での、日本の思想、文化、表現を再評価、再確立する上で、非常に重要なことである。あたかも、19世紀にバッハの受難曲を復活演奏させるような価値があるのではないだろうか。

松下真一（1922-1990）略歴（青字は数学理論物理学・赤字は音楽活動）

1922年10月1日、大阪府茨木市生まれ。父・久一より音楽的感化を、祖父・彦一から仏教の信仰と帰依による感化や影響を受ける。

1942 第三高等学校（京都大学の前身の一つ）理科卒業。

哲学（時間論）と自然科学に興味を持つ。

1945 九州帝国大学理学部卒

1948 九州帝国大学大学院（文部省特別研究生）終了。

- 1949 大阪市立大学理学部助手（位相調和解析学・ポテンシャル論）
- 1958 8人の奏者のための「室内コンポジション」が20世紀音楽研究所主催の第2回現代音楽祭（軽井沢）作曲コンクール第1位。
武満徹の弦楽アンサンブルのための「ソーン・カリグラフィー」も同率1位。二人は同研究所員に迎えられる。
- 1961 第35回ウィーン世界音楽祭より招待（同ISCM：日本代表）
「カンツォーナ・ダ・ソナーレNo. 2」が入賞。
- 1964 大阪市立大学理学部数学科助教授。
- 1965 ハンブルク大学客員教授及びハンブルク大学国立理論物理学研究所客員研究員。
- 1965 国際現代音楽協会（ISCM）国際委員日本代表となる。
ザグレブピエンナーレより招待。マドリッド世界音楽祭より招待。
「フレスク・ソノール」で入賞。
- 1966 日本万国博覧会委員、企画に参加。
- 1968 国際現代音楽協会（ISCM）音楽祭に日本代表として参加。
スウェーデン国立放送電子スタジオより招待。世界初のGaborsystemの共同研究。
第5交響曲「極・Pol」、「星たちの息吹き」作曲。
- 1969 「詩と音楽”心臓にて”」MBSで芸術祭奨励賞。
- 1970 EXPO'70。
- 1971 大阪市立大学退職。
- 1972 大阪芸術大学音楽学部創立委員。
ヴァイオリン協奏曲「田園詩」作曲。
サンスクリット語の合唱曲「回向Ekou」北ドイツ放送局で初演。
- 1973 オラトリオ「親鸞」。
「コンツェントラチオン」（1969年着手・作曲）をプレーメン近郊ヴェリングビュッテル教会でジグモンド・サットマリーのオルガンで初演。
- 1974 シンフォニア・サムガ（第六交響曲）、ビクターの委嘱で秋山和義指揮、読売日本交響楽団により初演。芸術祭優秀賞。
- 1977 カンタータ「仏陀」第3番で芸術祭優秀賞。
- 1990年12月25日没。

著書

- 1978 『西風にのって鐘は鳴る』（音楽之友社）
- 1979 『法華経と原子物理学』（光文社）

- 1980 『時間と宇宙への序説』(サイエンス社)
1985 『般若心経とブラックホール』(カッパ・ブックス光文社)
1991 『天地有楽 - ある作曲家の遺言』(音楽之友社)

受賞

- 第25回日本音楽コンクール第3位入賞
「管弦楽の為のトッカータとフーガ」
第1回ローマ国際作曲コンクール入賞。
第2回ローマ国際作曲コンクール入賞。
音楽クリティッククラブ賞。
音楽之友社出版賞。
フランス大使賞およびドイツ大使賞。
二十世紀音楽研究所主催現代音楽祭作曲コンクール第1位。
ウィーン及びマドリッド世界音楽祭入選。
大阪芸術賞、芸術祭優秀賞他多数。